

20. トビケラ目

現地調査では、松村雄氏の御協力をいただいた。また、とちぎ昆虫愛好会会員の小林教太、栃木県立博物館の中村剛之の両氏には同定の労を賜った。心より感謝申し上げる。

(1) トビケラ目の生息状況

栃木県内からは、櫻井 (2003) により未確定の 41 種を含む 17 科 86 種のトビケラ類が記録されている。

本調査では、文献記録を含め 5 科 7 種が確認された。このうち、文献記録のみの種が 2 科 4 種である (表Ⅶ-20-(1)-1)。この結果、西那須野・塩原地区からは栃木県産トビケラ類のうち、約 8% の生息が記録されたことになる。

かなり低い数値であり、極めて不十分な結果となった。

谷田他 (2005) によれば、トビケラ目は極地を除く、世界各地に分布している。成虫は翅長で 5～40mm 程度。中型から小型の種類が多い。チョウ目に最も近いグループであるとされるが、翅には鱗粉ではなく小毛のある種が多い。幼虫は、河川・湖沼など流水域から止水域まで様々な水系に広く生息するが、完全に陸生のものや珊瑚礁に生息する幼虫も例外的に知られていると述べている。

近隣地区の状況を勘案すると、追加記録される可能性が高い種類が相当数あり、今後の綿密な調査が望まれる。

【表Ⅶ-20-(1)-1 トビケラ目の科別種数一覧】

科名※	本調査地の生息種	調査確認	(文献記録のみ)
ヒゲナガカワトビケラ科	1	1	
ナガレトビケラ科	3		(3)
トビケラ科	1	1	
エグリトビケラ科	1	1	
カクツツトビケラ科	1		(1)
計	5 科	7 種	3 種
			(4) 種

※科の分類と配列は櫻井 (2003) に準じた。

トビケラ目は、主に塩原地区の山地帯を流下する、河川・溪流から記録されている。以下に科別に概要を述べる。

ヒゲナガカワトビケラ科のヒゲナガカワトビケラは、塩原地区の山地帯から成虫が確認された。成虫の個体数は多く、春と秋の年 2 回発生とされる。

ナガレトビケラ科はトワダナガレトビケラ・ムナグロナガレトビケラなど 3 種が、山地の溪流から記録されている。これらが含まれるナガレトビケラ属 *Rhyacophila* は、トビケラ目の中では最大の属である。幼虫は山地の小溪流や細流に分布する種類が多いとされる。

トビケラ科のアミメトビケラは、本州に分布する。幼虫は湿地や池沼などの、止水域に生息するとされる。現地調査では、大沼で成虫が確認された。小林から松村への私信によれば、栃木県における初記録種と判断され注目される。

エグリトビケラ科のホタルトビケラは本州以西に分布し、平地の小川や緩やかな溪流に生息するとされる。現地調査では、三区町で成虫が確認された。

カクツツトビケラ科のコカクツツトビケラは、北海道から九州 (含: 屋久島) まで広く分布する。山地溪流の中・下流に普通で、成虫は 5～10 月まで見られるとされる。調査地内では、山地の溪流から記録されている。

(2) 保全すべき種

保全すべき種に該当する確認種はなかった。しかし、トビケラ類は河川や止水環境の指標種として重要な位置を占めている。この点には十分留意していただきたい。

(3) 注目すべき種

注目すべき種は選定しなかったが、それに相当すると判断される種については、生息状況の項で概要を述べた。

(文責：渡辺 剛)

【目録】

※科の分類、科・種の配列、和名・学名は、概ね櫻井（2003）に準じた。

※生息確認種と生息エリアは、今回の現地調査結果及び文献記録から引用した。

※櫻井（2003）は加藤（1978）からの引用で、「(月山) 塩原町」(現、那須塩原市)を各種の産地として挙げている。しかし、当調査は今市市管内（現、日光市）で実施されたものである。このため、ここでは該当するデータを、全て除外した。

科名	和名	学名	A 地域	B 地域	C 地域	山岳 地域
トビケラ目						
ヒゲナガカワト ビケラ科	ヒゲナガカワトビケラ	<i>Stenopsyche marumorata</i> Navas				○
ナガレトビケラ 科	トワダナガレトビケラ	<i>Rhyacophila towadensis</i> Iwata				□*1
	ムナグロナガレトビケ ラ	<i>Rhyacophila nigrocephala</i> Iwata	□*1			
	クレメンスナガレトビ ケラ	<i>Rhyacophila clemens</i> Tsuda				□*1
トビケラ科	アミメトビケラ	<i>Oligotricha fluvipes</i> (Matsumura)				○
エグリトビケラ 科	ホタルトビケラ	<i>Nothopsyche ruficollis</i> (Ulmer)		○		○
カクツツトビケ ラ科	コカクツツトビケラ	<i>Goerodes japonicus</i> (Tsuda)				□*1

【参考文献・引用文献】

※目録に引用した文献は、末尾に*を付している。

環境省，2007．昆虫類レッドリスト．絶滅危惧種情報，環境省ホームページ．

環境庁自然保護局野生生物課編，1995．日本野生生物目録—本邦産野生動植物の種の現状—（無脊椎動物編Ⅱ）．（財）自然環境研究センター，pp. 517．

加藤仁，1978．月山周辺の昆虫について．今市地点自然環境の現状調査並びに影響評価報告書．東京電力株式会社，pp. 5-24．

加藤仁，1998．4) 黒磯市のトビケラ相．黒磯市動植物実態調査研究会（編）．黒磯市動植物実態調査報告書．黒磯市動植物実態調査研究会，pp. 419-420．

櫻井正美，2003．トビケラ目 Trichoptera．栃木県自然環境基礎調査 とちぎの昆虫Ⅰ．栃木県林務部自然環境課，pp. 404-415．*1

谷田一三・野崎隆生・伊藤富子・服部壽夫，2005．トビケラ目（毛翅目）Trichoptera．日本産水生昆虫—科・属・種への検索．東海大学出版会，pp. 393-572．

栃木県林務部自然環境課・栃木県立博物館編，2005．レッドデータブックとちぎ．栃木県，898pp．